

「未来を創ることばの力」 ～ 子どもたちが自走する国語教室の創造 ～

1 メインテーマ「未来を創ることばの力」について

子どもたちが生きる社会は、日々めまぐるしく変化している。このような予測困難な社会の中で幸せに生きていくためには、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、ゆるやかな協働性の中で仲間と関わり合いながら社会を切り拓いていくことが求められる。そのためには、物事を正確に理解し、論理的に思考し、豊かに想像し、適切に表現することができる「ことばの力」が不可欠である。

このような考えに立ち、私たち国語教師は、これまで以上に子どもたちのもつ力と可能性を信じ、ことばで未来を創造していく子どもを育てたいと考え、本テーマを設定した。

2 サブテーマ「子どもたちが自走する国語教室の創造」について

(1) 子どもたちが自走する学び

本テーマに迫るために、私たち国語教師は、教師の指示待ちではなく、自らがことばと向き合い、自らのことばの世界を創っていかうとする自律したことばの学び手の育成を図っていく必要がある。

この自律したことばの学び手を育成するためには、学習指導要領における、「主体的に学習に取り組む態度」の評価の観点として示されている「粘り強さ」と「自己調整力」を十分に発揮できるよう、自己選択・自己決定する学び、すなわち子どもたちが自走する学びへ転換していかなければならない。令和5年度は、初年度の取組として、各部会において「自走する子どもたちの姿」について議論を重ね、その具体化に向けて、自己選択・自己決定のある学びの機会を設定したり、学習の見通しをもてるよう支援したりすることで一定の成果が見られた。しかしながら、子どもたちの資質・能力の一層の向上に向けて、自己選択・自己決定の内容や場面の設定の仕方、協働する場面での対話の仕方などまだまだ多くの課題が見られた。

(2) 伴走者としての教師の役割

子どもたちが自走する国語教室を創造するために、「子どもは有能な学び手」であるという視点を持ち、子どもたちが自走するための豊かな学習環境を整えることが、私たち教師の重要な役割である。こうした考えのもと、教師が子どもたちの伴走者として寄り添い、どのような支援をすることができるのかについて、各部会で具体的な方策を検討していく。

令和5年度の取組を「自走する学びへの転換のスタート地点」と捉え、令和6年度も引き続き、「子どもたちが自走する姿」の実現に向けて、これまでに明らかとなった課題の解決に向けた研究を進めていく。